

江戸期のやきものの大きな特徴には、陶器と磁器に共通してみられる、彩り鮮やかな絵付けによる豊かな装飾性と、具体的な事物の形状をかたどる「つくりもの」の二点があります。ここでは、その伝統を近現代にも受け継いだ作品を紹介します。華やかな色彩で絵付けされる京焼や犬山焼、そして有田焼の色絵磁器は、その特色を継承しつつも、現代的な感覚がうかがうことのできる作品です。さらに、薩摩焼は幕末以来の錦手という色絵陶器を現在に継承したものです。一方、九谷焼や備前焼、萩焼の置物は、江戸期のユーモラスな造型感覚を近代に伝えた作品といえます。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

Regional Features of Japanese Crafts I  
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.27

Edited by Museum of the Imperial Collections, Japan  
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Ōtsuka Kōgeisha, Ltd., Japan

Translated by Tsuruoka Atsuo

Published by Imperial Household Agency, Japan

Issued on January 12, 2002

工芸風土記・壺

諸国やきものめぐり

三の丸尚蔵館企画展図録 No.27

編集：宮内庁三の丸尚蔵館

制作：大塚巧藝社

翻訳：鶴岡厚生

発行：宮内庁

平成14年1月12日